

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600033	事業の開始年月日	平成18年6月1日	
		指定年月日	平成18年6月1日	
法人名	株式会社エクセルシオール・ジャパン			
事業所名	いきいきの家 泉			
所在地	(〒245-0018)			
	神奈川県横浜市泉区上飯田町3805-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18 名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>横浜市の中心地から電車やバスを乗り継ぎ40分程度にありながら、天気の良い日には富士山も一望できます。施設の周りは野菜畑が広がり平坦な道も多く、交通量も少ない事から高齢者が気軽に外出や散歩に出掛ける事ができます。また徒歩3分程度の場所に、小学校や中学校があり、学生の体験学習を受け入れたり、自治会の行事に参加するなど、施設に入居していても地域と共に暮らしていく事が実感して頂く事ができます。</p> <p>利用者様にはご自宅で過ごしていた時と同じように、買い物や外食などにも気軽に出掛け楽しんで頂ける機会を多く設けています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年2月18日	評価機関 評価決定日	平成26年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇ボランティアの積極的な受け入れによる理念の実践 近隣のボランティアに、ギターやハーモニカ、大正箏を演奏してもらい、理念にある「笑顔あふれる生活～」を実践しており、又毎年、地元中学校の「ふれあい体験」の生徒を受け入れ、利用者と一緒に折り紙を折ったりして、利用者の日常生活に活気と潤いを与えている。</p> <p>◇利用者の尊厳を第一にした束縛のない日常生活 事業所前の道路は交通量が少なく、日中は玄関・ユニットの入口共に施錠せず、職員は、利用者がいつでも自由に出入りができるように見守りにて対応しており、利用者は安全で抑圧感のない生活を楽しんでいる。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇利用者の虐待防止策の徹底 毎年全職員が、30項目からなる虐待に関する自己点検シートをチェックし、結果を全員に公表するとともに管理者が解説して職員一人ひとりが研鑽に努めて、虐待防止意識の向上を図っている。</p> <p>◇利用者の状況に応じた排泄への自立支援 排泄チェック表で、24時間の排泄パターンを把握し、排泄したときはチェック表に青字で表示して、声かけのタイミングを分かり易く工夫している。</p>

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	いきいきの家 泉
ユニット名	江の島

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	●	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		●	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		●	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		●	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		●	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	●	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		●	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		●	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、スタッフは法人及びホームの理念や目標を共有する為、名札の裏に理念、モットーをプリントしている。理念、目標は玄関並びに事務所内にも掲示し、スタッフが目を通しやすくしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に「利用者の尊重や、安心できる環境、笑顔あふれる生活」を掲げ、職員の名札の裏に記載し、玄関と事務所内に掲示している。 ・朝夕のミーティングで、理念に基づくサービスを行っているかを振り返り確認し合っている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の中学校の体験学習の受け入れや、自治会のお祭り等に参加している。また、施設の行事に大家さんや自治会長にご招待の声掛けを行うなど地域の一員として存在している。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会には開所時より加入しており、盆踊りや地区センターの行事にも積極的に参加している。 ・中学生の体験学習、ボランティアによるギター、大正箏の演奏を受け入れ、事業所の行事にも地域の方を招待して交流している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の散歩時には欠かさず挨拶を行い、施設で行う花火大会等の行事の前には、ご近所の方々へのお誘いや行事を行う事を伝え、ご利用者様への理解を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催している。区役所やケアプラザの担当者の方に出席して頂く都合上、平日開催が多いが、行事の際にはご家族も多くご参加頂ける為、日曜日に開催する事もある。事故の内容など具体的に説明し、率直な意見を聞かせて頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は年6回開催し、自治会長、地域包括センター、区の職員、家族が出席している。 ・会議では活動報告や誤薬の事故、ヒヤリハットの内容を具体的に説明し、意見交換をしている。 ・意見の中で改善できるものは、即改善し運営に反映させている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の研修などに参加している。生活保護を受けている方も入居されており、月1回は状況をお知らせしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の認定更新時や生活困難者の現況報告などで、区の職員と連携している。 ・区役所主催の研修に出席するとともに事業所の状況報告や問題が発生した場合には相談できるよう、協力関係作りに努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間、防犯の目的以外は施錠せず、常にフリーの状態です。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・「身体拘束をしないケア」に取り組んでおり、日々の生活の中で身体拘束になっていないか常に職員間で確認し合い、毎年研修をしている。 ・玄関は夜間以外は開錠し、ドア前にセンサー付きマットを敷き、外に出るときのチャイムの音で、職員が対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の利用者様への対応や言葉使い等に気を遣い、虐待が起こらない環境作りをスタッフが意識を高め行い実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が付いている方が入居されており、区役所の担当者との打ち合わせなどもあり学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。契約には1時間以上の時間をかけ、十分な説明を行い理解、納得頂いたうえで契約して頂くようにしている。希望する方には事前に契約書や重要事項説明書をお持ち帰り頂き、事前にお読み頂くなどの対応もしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の議事録やクレーム内容は、都度スタッフに回覧されており、運営に反映させる事が出来ている。また玄関に「ご意見箱」を設置して、無記名によるご意見、ご要望を受け付けられるようにしている。	・家族からの意見、要望は来訪時や行事の後、運営推進会議の折に聴いている。 ・おやつ の量、質についての要望や職員がイベントに参加して盛り上げてほしいなどがあり、職員間で話し合っ てサービスに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやミーティングが定期的に行われている。	・カンファレンスやミーティングは隔月ごとに、個人面談も年2回実施し、意見を聴く機会を設けている。 ・シャワー用イスの配備の意見があり、即改善しサービスに反映させた事例がる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握はされている。個々に直接管理者と話をできる環境になっている。25年度より資格取得制度が開始となった。休暇はスタッフが希望する日が取れるようになっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は回覧され、職員全員が対象となり、希望者は勤務時間内参加する事もできる。25年度より資格取得制度が開始となり、資格取得しやすい環境作りがなされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	互いのホームへの行き来はほとんどしていないが、花火大会のお誘いやボランティアさんの紹介などして頂くなどの交流はある。管理者は毎月近隣グループホームと連絡を取り合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪室、声掛けを頻繁にする事によって、ご利用者様の困っている事、不安を取り除いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族からの要望を聞き、フェイスシート等に記入している。入居後も直接要望を聞けるような環境を作っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活環境が変わった事での不安をご家族とも連携しながら支援するように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや盛り付け、洗濯物たたみ等、ご利用者が好きな事を理解して一緒に行っている。また日々の生活を協力し合い過ごしている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご本人の生活状況をお手紙にして伝え、現在の状況を把握して頂けるようにしている。そのうえでご家族とも連絡を取り合い、要望等を聞いている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	定期的にイベント等を開催、お知らせするなど、ご利用者様のご家族や知人の方々が気軽に来所できる環境作りを心掛けている。また思い入れの地の事などを話してもらう	・馴染みの関係が途切れないように手紙や電話の取次ぎ、その返信にポストまで一緒に行くこともある。 ・利用者が以前働いていたラーメン屋さんを職員と一緒に訪ねたり、馴染みの友人が面会に来てくれる利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションでご利用者様に声掛けし、ボール投げや体操を一緒に行う等の交流を設けたり、常にスタッフがご利用者様の様子を連絡し合い、スタッフ全員が対応できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院など医療依存度が著しくなった場合には、その後の状況など医療機関と連携を図っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や支援の中で信頼関係を築き、一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。	・職員はアセスメントにて生活歴を把握の上、日常生活の会話の中で意向を把握しノートに記録している。 ・困難な方にはしぐさ、表情から気持ちを汲み取るようにしているが、それでも伝わらないときは思いあたることに対応し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員同士で情報を共有し引き続き行える事を無理なく継続して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態については毎朝バイタル測定を行い状態変化に注意している。また逐一様子をうかがい、個別の介護記録に時系列で状態、状況を記載している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的に行い、意見やアイデアを反映している。	・介護計画は本人、家族の意見や要望を聞き、アセスメント、モニタリングしている。カンファレンスには、職員全員が参加して意見交換を行い介護計画に反映している。 ・2～6か月で見直しをしているが状況に応じて随時対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に時系列で記録し実施して「どうだったのか」も記録し職員で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気の良い日はドライブや買い物に出かけている。利用者様の希望により数名単位で外食に出かけるような柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会入っており、盆踊りや避難訓練などの行事に参加させて頂いている。現在お一人で外出される方はいないが過去には近隣のガソリンスタンドやコンビニ、住民の方をお願いをして利用者様が単独で散歩や買い物が出来ていた。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的（1回/2週）に訪問診療があり、必要に応じて勧められた病院受診を本人と家族に報告、相談し適切な医療を受けて頂いている。	・入居時に本人、家族が希望する医療機関を受診できることを説明しているが、現在全員が、インフルエンザの予防接種や定期的に受診できる協力医療機関で受診している。 ・その他の診療科へは職員、家族が付き添っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的（1回/週）な訪問看護が行われ、変化があれば早期に看護師に伝えている。健康管理及びアドバイスを行うほか、訪問医師に情報提供を行っている。24時間連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携を取り、早期退院に努めている。ADL低下の防止の為、担当医師、看護師と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に関する希望を書面で提出をして頂いている。また実際に終末期を迎えた利用者様には家族、医師、看護師と話し合いの機会を設け、訪問医師のバックアップのもとホームで看取った事例もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期対応の方針を定め、事業所で終末期を希望される家族には説明の上、同意を得ている。 ・利用者が重度化した場合、ぎりぎりまで対応し医療行為が発生した時点で連携の協力医療機関に受け入れてもらえるようにしている。 	利用者が、重度化した場合や、看取りが必要になった場合の対応などについて、職員への研修、勉強会の実施が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の講習を受けたり、ホームのマニュアルをすぐ目に付くところに置いてある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い避難方法を学んでいる。消防署の職員の方に来てもらい訓練も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・避難訓練は、夜間の想定を含め年3回行っている。 ・泉消防署より署員の指導を受け、スプリンクラーの設置や現在の運営状況の確認と、自主的に避難訓練を行う際も消防署に届けるように、などのアドバイスがあった。 	現在、地域に対してチラシを配布するなどの努力をされていますが、今後、運営推進会議を通して地域住民の参加要請が望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人ひとりの個人情報を把握し、性格や気分等の変化による対応も心掛け、言葉かけにも注意している。お名前前に「さん」をつけてお呼びし、一人ひとりの人格を尊重している。尊敬語を入れながらの会話を心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出している。 ・日頃よりプライバシーを損ねることのないように心掛け、〇〇さんと呼び人格の尊重に努めている。 ・個人情報を含む書類は、施錠のかかる書庫に保管している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が発言しやすいような声掛けを心掛けている。「どちらが良いですか？」など選択肢を設け、利用者様に選んで頂く機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に合わせて散歩や入浴が出来るように工夫している。また散歩の嫌いな方には声掛けを控え、食事をゆっくり召し上がる方には、その方の終了時間迄声掛けしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立してる方でいつもと違う装いをされていた時は必ず「素敵なお洋服ですね」などの誉め言葉をかけている。季節や室温を考慮し、昨日と違う服装になるように心掛けている。定期的に訪問美容があり、本人の希望にお伺いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の手伝い、皮むきやお皿の盛り付けなど、一緒に出来る事で楽しく食事が出来るようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は食事介助をしながら、利用者と一緒に食事をしている。 ・誕生会にはロールケーキを食べ、色紙に寄せ書きして祝っている。 ・利用者は職員と一緒に、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き、下膳を行っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックし表に記入して把握している。常食摂取できない利用者様には、ミキサー食やきざみ食、とろみを付けるなど利用者様に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な利用者様には一人ひとりにあった口腔ケアを実施している。介助の必要ない利用者様には毎食後、声掛けを行い、口腔ケアを習慣にして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間排泄チェック表を記入し、タイミングに合わせたトイレへの声掛けを個別に行っている。場合によっては同行し、お手伝いを行っている。おむつ使用の方でも座位保持可能な方には日中トイレへ誘導して、排泄して頂くようにしている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。 ・利用者の様子から尿意を察知してトイレに誘導し、排泄の自立支援に努めている。 ・リハビリパンツから布パンツへ改善した例もある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、「の」の時のマッサージをしている。便秘時は内服薬や座薬を使用するなど一人ひとりに合わせた対応を取るようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の状態や希望により、入浴日、時間を決めている。シャワー浴の方には、同時に足浴を行い、体が冷えにくい工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は基本的には週2～3回、1日毎に入浴をできるように支援している。夏場は清拭や足湯の時もある。 ・入浴を拒む方には、声かけする、又、利用者の好む時間帯に入浴するように配慮している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にエアコンや加湿器のスイッチを入れ、快適な室温にしておく。食席やソファで傾眠されている方にベッドで休んで頂くように声掛けを行っている。また安全に配慮して、しばらくソファで休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更があった時は、服薬後の様子観察を行い記録している。また必要に応じて、往診医へ状態を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの得意な事、不得意な事をスタッフが理解し支援している。洗濯物たたみや調理など、その方が心地よく活動して頂ける場を多く設けるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や吊るし雛見学、こいのぼり見学など季節を感じて頂ける外出行事を定期的開催している。また天気の良い日は散歩の声掛けを行い、希望する方が出来る限り外出出来るように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気により車いすの方も、事業所の周りや近くの小学校、畑の農作物を眺めながら散歩に出掛けている。 ・コンビニや大型電器店へ小物の買い物にも出かけている。 ・瀬谷の古民家へひな人形を見物したり、大船フラワーセンターへ遠出することもある。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームで金銭管理をしているが、買い物をする際はできる限り利用者様と同行し、自身で色、柄、形を選び、金額も含め気に入った物を購入できるようにしている。食べ物や飲み物なども、利用者様自身に好きな物を選んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などがホームに届いた際は、本人へ手渡し必要に応じて読み上げるなどの対応をしている。電話を希望した際はホームの電話を使用する事が可能。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入浴時、脱衣所の温度を適温に保っている。夏場は冷えずぎないようにして、冬場は乾燥に注意し加湿器もしようするなど室温が一定温度になるように配慮している。リビングには極力物は置かないようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは明るく清潔に保たれ、備品類をなるべく置かないように整理整頓に心掛けている。 ・壁面にはイベントの写真、利用者のぬり絵を飾ってある。 ・クリスマスツリー、桜、紅葉など季節を感じる飾り、家庭的な雰囲気できつろげるように配慮している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内は自由に使って頂いているが、ほぼ定着している。その日の気分に合わせて、食席やソファと好きな所に座り過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使用されていた家財や衣類を持ち込み使用して頂いている。安全に配慮しつつ、家具等は利用者様の希望により配置するようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室は使い慣れた整理ダンス、椅子、仏壇を置き、ぬいぐるみ、家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。 ・利用者の中には、職員と一緒に掃除をする方もいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできる事は見守りながら、ご自分のペースで行って頂いている。利用者様の「できること」と奪わないように注意して、一人ひとりのできること、できないことを見極め、必要に応じた支援を心掛けている。		

事業所名	いきいきの家 泉
ユニット名	鎌倉

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	●	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	●	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	●	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	●	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	●	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	●	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各フロアーに掲示している。基本理念は各自の名札裏に入れ、常に確認できるようにしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。行事なども声を掛けて下さるので、出来るだけ参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時に出会った人には必ず挨拶するようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見は管理者からスタッフへ伝え、話し合うようにしている。改善の必要なものは早急に改善しサービス向上できるように取り組んでいる		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の研修などに参加している。生活保護を受けている方も入居されており、月1回は状況をお知らせしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料、アンケート、ミーティングなどで話があり理解している。身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は夜間の施錠時以外は常時開錠されており、フロアーの入り口は基本的に施錠はしていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料などの配布があり、どのような事が虐待にあたるか理解するとともに虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が付いている方が入居されており、区役所の担当者との打ち合わせなどもあり学ぶ機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。契約には1時間以上の時間をかけ、十分な説明を行い理解、納得頂いたうえで契約して頂くようにしている。希望する方には事前に契約書や重要事項説明書をお持ち帰り頂き、事前にお読み頂くなどの対応もしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会やクリスマス会などホーム内で行う行事にご家族を招待している。行事後に運営推進会議を開催するなどの工夫をしている。また玄関前に意見箱を設置しており、無記名で意見を言える環境を作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、夕礼を行っている。またカンファレンスとミーティングを毎月1回順番に行い、施設運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握はされている。個々に直接管理者と話をできる環境になっている。25年度より資格取得制度が開始となった。休暇はスタッフが希望する日が取れるようになっている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は回覧され、職員全員が対象となり、希望者は勤務時間内参加する事もできる。25年度より資格取得制度が開始となり、資格取得しやすい環境作りがなされている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	互いのホームへの行き来はほとんどしていないが、花火大会のお誘いやボランティアさんの紹介などして頂くなどの交流はある。管理者は毎月近隣グループホームと連絡を取り合っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各利用者様に担当スタッフを付け、日常の様子や要望等を積極的に聞き、信頼関係を築きながら対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族からの要望を聞き、フェイスシート等に記入している。入居後も直接要望を聞けるような環境を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活環境が変わった事での不安をご家族とも連携しながら支援するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食事作りを一緒に行って頂き、互いに助け合う関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご本人の生活状況をお手紙にして伝え、現在の状況を把握して頂けるようにしている。そのうえでご家族とも連絡を取り合い、要望等を聞いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	催し物の参加を促したり、外出時の支援に努めて、馴染みの関係を継続できるように努めている。利用者様のお友達などがいらした際は、ゆっくりお部屋でお話して頂くなど、のんびり過ごして頂けるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が他の利用者様の見守りをしたり、皆で洗濯物をたたむなど、相互に関わりあうことが出来る雰囲気である。レクリエーションの一環として利用者様が主体となり体操する時間を設けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院など医療依存度が著しくなった場合には、その後の状況など医療機関と連携を図っている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランに本人の意向欄を設けている。プラン更新時には必ず本人の意向を確認するとともに、日常生活の会話より本人の思いや希望を把握するように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより調査をしたうえで、ホーム独自のフェイスシートに記載している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	逐一様子をうかがい、個別の介護記録に時系列で状態、状況を記載している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向欄を設けています。毎月モニタリングを行うほか、2ヶ月に1回カンファレンスを開催し、介護職、ケアマネ等と意見交換を行い、介護計画に反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成しており、常に職員が目を通して気づいた点を話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気の良い日はドライブや買い物に出かけている。利用者様の希望により数名単位で外食に出かけるような柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会入っており、盆踊りや避難訓練などの行事に参加させて頂いている。現在お一人で外出される方はいないが過去には近隣のガソリンスタンドやコンビニ、住民の方をお願いをして利用者様が単独で散歩や買い物が出来ていた		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で近隣病院より内科医が訪問診療に来ている。インフルエンザの予防接種や健康診断はホームにて行い、病院受診の必要はない。又精神科や眼科等、協力病院以外への送迎も実施している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に看護師がホームに来ている。健康管理及びアドバイスを行うほか、訪問医師に情報提供を行っている。24時間連絡が取れるようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携を取り、早期退院に努めている。ADL低下の防止の為、担当医師、看護師と情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に関する希望を書面で提出をして頂いている。また実際に終末期を迎えた利用者様には家族、医師、看護師と話し合いの機会を設け、訪問医師のバックアップのもとホームで看取った事例もある		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で応急手当や初期対応の訓練を定期的実施している。またマニュアルを作成し常時確認できるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設単位で定期的に昼夜の火災を想定し、利用者様も参加して避難訓練を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対して「おじいちゃんおばあちゃん」などと呼ばず、一人ひとりのお名前でお呼びしている。またお話しする時は目線を合わせ、丁寧な言葉かけを心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が決めた事や希望した事を大切にし、思いや希望を表現できない方には分かりやすく説明し支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の能力や希望に合わせて、散歩や買い物、室内での手芸、体操等日々さまざまな過ごし方を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、本人の自己表現の一つとして本人の好みに整えられるように支援し、不十分な所はさりげなく乱れを直している。2ヶ月に1回の訪問理美容で毛染めやカット、パーマも行っている。また希望者には買物同行し自分で衣類を選んで頂ける機会を設けるようにしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援	スタッフも利用者様と同じ物を食べている。又調理や片づけにも利用者		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>に。実施や片付けにも利用者様に参加して頂き、一連の流れを共に行っている。又、おやつや昼食作り、外食会等で利用者様の希望を取り入れるようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェックして管理している。摂取量の低下が著しい場合は調理方法や食事形態を変えるなどの工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケア(舌ブラッシング含む)を行い、個人の状態に合わせて支援を行っている。月2回訪問歯科に診てもらい、ホーム内での治療が困難な方は外来にて送迎付きで診てもらっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	すぐにおむつを使用するのはなく、布製のトレーニングパンツを使用したり、排泄チェック表にてパターンを把握し、声掛けやトイレ誘導をしている。夜間おむつ使用中の方も日中はリハビリパンツを使用して頂き、トイレ誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と適度な運動が有効であることや影響等を理解している。個人の状態によっては、牛乳で対応したり、散歩やレクリエーション等で体を動かすことを心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日入浴を実施している。入浴時間や入浴方法も利用者様の希望に合わせて対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中は活動的に過ごしてもらうようにしている。また居室やベッド周りの清潔保持や室温等に気を配り、快適に過ごして頂けるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服の種類や効能、副作用について理解している。またいつでも確認できるように個人別にファイルしてある。変更があった際は、記録、申し送りで伝えるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて、洗濯たたみや拭き掃除をお願いしている。また会話から過去に得意なことを引き出して役割を担ってもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に問題がなく希望があれば毎日でも散歩に出掛けたり、利用者様によっては近くのコンビニに雑誌を買いに行ったりしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームで金銭管理をしているが、買い物をする際はできる限り利用者様と同行し、自身で色、柄、形を選び、金額も含め気に入った物を購入できるようにしている。食べ物や飲み物なども、利用者様自身に好きな物を選んで頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはホームの電話を使用してもらっている。またホームに掛かって来た電話も取り次いぎ、お話して頂いている。本人に来た手紙は直接本人へお渡しして自身で開封して頂いている。手紙や葉書は散歩の際、自身で投函して頂くなどの支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先で育った季節の花を玄関やリビングに飾り季節感を味わって頂いている。また食事中は優しい音楽を選曲して適切な音量で流すなど居心地良く過ごせるように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まっている食席で隣席の方とお話を楽しまれたり、リビングのソファでゆったり過ごすなど気分に合わせて移動して頂けるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様個人の好みや希望に合わせた物や使い慣れた物、馴染みのある物を持ち込んで頂く事で、居心地良く過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などには分かりやすいように名札が付いている。一人ひとりのできる事とできない事を見極め、できるだけ自分の事は自分で行って頂けるようにな声掛けや支援を行っている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 いきいきの家 泉

作成日 平成26年3月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防災訓練にて、地域に対してチラシを配るなどの努力はしているが、現状は施設の職員のみで実施しており、地域住民の参加がない。	近隣住民も参加した防災訓練を実施する。	訓練実施日を気候の穏やかな春、秋の日曜日午前中などに設定して住民が参加しやすいように工夫する。又、町内会長などに事前に相談し回覧板を回してもらい、防災担当者に参加してもらえるようお願いする。	1年間
2	12	利用者が重度化した場合や看取りが必要になった場合の対応などについて、職員への研修、勉強会の実施が不十分である。	利用者が重度化した際、職員が慌てたり、必要以上に不安になることなく、介護が行える環境を整える。	年間研修にターミナルケアの項目を追加する。ターミナルケアの実施前に、実際にその時が来ても介護できるような、心構えができるような内容で研修を行う。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。